会派視察・研修報告書

会派名　　自民クラブ

代表者名 嶋内　九一

1　日　　に　　ち	令和　６年　２月　６日　（　火　）
2　視　　察　　先 研修名、主催者及び会場	茨城県　笠間市
3　参　　加　　者	嶋内九一、若尾敏之、城處裕二、玉置真一、加藤智章
4　調査・研修の テーマ	やきものの街の移住定住～多様な移住と多角的な角度での街の魅力アップ及び交流人口増加の取組について
5　主な内容	①移住定住政策の背景 ②移住定住政策の内容 ・空家・空地バンクについて ・移住・定住ポータルサイト「SUMSUM 笠間」について ・移住へのプロセス　（アプローチから定住まで） ・「のんびり笠間焼散歩」イベント他、地域産業に携わってもらうためのアプローチについて ・移住定住の実態・実績 ・庁内及び他団体との連携について ③笠間地域おこし隊の取り組みについて ④その他 ・あしたラボプロジェクトについて（笠間版生涯活躍のまち「モデルコミュニティ」を目指す笠間市主導の共創型社会形成プロジェクト） ・笠間陶芸大学校の学生に対する移住定住へのアプローチについて ・笠間焼を通した移住定住や交流人口増加への取組（ギャラリーロード、やきもの通り、芸術の村などの町並みづくりを含む） ※現地見学を含む。

6　所感、提言事項、課題等	【嶋内九一】 　笠間市移住体験センターは、笠間市が移住を希望する方々に対して、実際の暮らしや働きを体験する機会を提供する施設です。その一環として次のような体験メニューがあります。 1.農業体験: 笠間市周辺の農家での農作業体験。野菜や果物の収穫や畑作業などを通じて、農業の魅力を体感することができる。 2.工芸体験: 笠間市は陶芸や絞り染めなど伝統的な工芸品が盛んな地域であり、地元の工芸家との交流を通じて、手作り体験を行うことができる。 3.地域交流体験: 地域の方々との交流会やイベントへの参加。地元の文化や伝統に触れることで、地域の魅力を深く理解することができる。 4.住まい体験: 地元の住民との交流を通じて、実際の住宅や住環境を体験することができる。 まとめ 　自然環境や地域の文化に触れることで、地域への理解を深めることができるだけでなく、地域住民との交流を通じて新たな人間関係を築くことも可能である。移住を検討する方々にとって、実際の生活や仕事環境を体験することは、将来の暮らしの選択において重要な情報収集の一環となるだろう。 　多治見市としては、陶器の町として陶磁器意匠研究所と協力して陶芸体験を提供できる環境整備や陶芸家を紹介することもできる。しかし、地域交流体験は可能だが、住まい体験は空き家の体験など環境が準備できていないため、受け入れは、今は困難である。 【若尾敏之】 　茨城県笠間市は県のほぼ中央に位置しており、人口は約７万１千人、県有数の観光・芸術・文化都市である。また、日本一の栗の産地でもある。移住については「住む場所を変える」という考えのもと、移住ＰＲ動画「笠間のくらし」、移住支援金などの補助金や創業支援補助金などの仕事に関する補助金などの制度を設け、笠間市移住体験施設での移住体験などを経験することによって、移住を促している。笠間市移住体験施設「かさちょこＨＯＵＳＥ」は田舎暮らしを考えている人が一定期間滞在し、笠間市での暮らしを体験できる家です。１泊２，０００円の光熱水費を支払えば設備・備品は整っており、３泊４日以上２週間以内で年度内２回利用できる。このハウスを体験して実際に移住された方はハウスの体験が移住した理由の１つであると答えている。もう一つの理由として、焼き物の産地〔笠間焼〕で制作活動を始める為の良い環境であることも重要な要素である。ハウス体験者２０組の７割が首都圏の１都３県からであり、１０組２０人の移住が実現している。もう一つの大きな施策は、「あしたラボ・プロジェクト」である。共創型社会形成プロジェクトとして積水ハウス・セキスイハイム・パナソニックホームズ・大和ハウスの大手ハウスメーカーと笠間市が住宅２０棟を用意して、移住を促している。現在１４棟が契約済みという好調ぶりである。移住・定住はどの市も取り組んでいる施策であるが、工夫を凝らす事で実績を上げることが出来る。他市と同じ施策をしても、効果は少ないと思われる。今回の視察で体験ハウスを用意する取り組みは多治見市では行っておらずチャレンジする事で成果を期待したいと思います。笠間市のコンセプトが「田舎くらし」なので、多治見市とは若干違う部分はあるがチャレンジする価値はあると思います。

【城處裕二】

笠間市は、東京から約 100 ㎞・茨城県のほぼ中央に位置しています。地場産業として笠間焼があり、市内に茨城県立の笠間陶芸大学校を有し、本市と通ずるところも多くあります。平成 18 年の合併により 83,000 人となった人口は、現在 71,000 人と著しく減少しています。

東京の通勤圏というよりは、笠間の文化や自然を背景にそこでの暮らしを魅力に移住定住を推進しています。移住体験施設「かさちょこＨＯＵＳＥ」は、笠間の暮らしを体験できる施設として市が運営しています。この施策が視察のメインだったのですが、本市で取り組むには費用対効果面で不向きであると感じました。

【玉置真一】

笠間市企業誘致・移住推進課の取り組みの一つとして、移住を検討、移住体験をしてみたい、移住の準備に一定期間滞在したい方を対象とした移住体験施設『かさちょこ HOUSE』が用意されています。この施設は、空家及び空地を有効活用するための空家・空地バンク制度のもと、貸したい方と借りたい方のマッチングに向けた支援に取り組み、高い成約率を誇っているとのことでした。その他、笠間市移住ガイドブック『笠間移住計画』や笠間への移住・定住をサポートするポータルサイト「sumusumu 笠間」は、笠間での暮らしを想像できる情報や空家・空地バンクページ物件詳細や仕事の情報などが分かりやすく掲載されています。

多治見市も移住定住について様々な取り組みをしているが、多治見市の魅力、不動産情報の提供など移住希望者にわかりやすい情報発信等をさらにしていく必要があると思い、今後について大変参考になりました。

【加藤智章】

笠間市は地方自治体として、地域活性化や人口増加を促進するために様々な取り組みを行っています。

1.**情報発信と PR 活動**　魅力的な地域情報を発信し、都市部からの移住者や定住を考える人々に向けて PR 活動を行っています。

2.**住民参加型の地域づくり**　住民参加型の地域づくりを推進しています。これは、地域住民が自らの地域に関わり、活動することで地域コミュニティを活性化し、魅力的な居住環境を整える取り組みです。

3.**施設整備と住環境の向上**　住民の生活を支援するための施設整備や住環境の向上にも力を入れています、これには、公共交通機関の整備、教育機関や医療機関の充実、住宅の供給などが含まれます。

4.**地域資源の活用**　地域の自然や文化、産業などの資源を活用して地域経済を振興し、魅力的な暮らしを提供しています。

5.**移住支援制度の提供**　移住を希望する人々や移住後の定住を支援する制度やサポートを提供しています。これには住宅支援や子育て支援、就労支援、移住者向けの情報提供などが含まれます。

感想

笠間市は都心からの移住者にターゲットを置いているが、多治見市は明確なターゲットを決めているわけではなく、戦略を絞ったほうが良いと思う。多治見市の産業や地域性を活かした移住定住を検討すべきだと思う。

7　写　　真　　等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意	

※視察先、研修先ごとに１枚作成すること。

※「６　所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。